

弥生時代の石器（石庖丁）生産の実態調査

中 村 修 身

調査の目的

昭和9年、中山平次郎は飯塚市下ノ方遺跡^(註1)で輝緑凝灰岩質頁岩を用いた石庖丁や福岡市今山で玄武岩を用いた石斧の未完成品を発見し、石器製造所址として学界に報告した。これを論拠に、弥生時代の石庖丁および石斧などの生産はそれぞれ今山と立岩の專業集団によって担われたとする見解^(註2)がだされた。

昭和40年代、発掘調査によって福岡県直方市感田上原遺跡や同北九州市原遺跡などで石庖丁や石斧の未完成品^(註3)が発見されたことを契機に、(輝緑凝灰岩質頁岩製)石庖丁は立岩で專業的に作られ、交易されたとする論に疑問が投げられ対案が示されたが^(註4)、依然として、旧来の考え方が体制を占めてきた。

この原因の一つに弥生時代の石器に興味をもつ研究者が極めて少ないことなどが挙げられると共に、最近の多量の発掘調査の成果が十分に伝わっていないことにある。そこで近年発掘調査例が増加している石庖丁未完成品の出土とそれを出土する遺跡（集落）^(註5)の関係を石庖丁未完成品出土遺跡一覧表（以下未完成品一覧表とする）として提示し、弥生時代の道具（石庖丁）生産の実態を明らかにしたい。

石庖丁未完成品出土遺跡一覧表の作成にあたって

①本来ならば弥生文化全域を対象に一覧表を作成すべきであろうが、筆者の能力的限界と多くの発掘調査にもかかわらず調査者の問題意識（研究対象）によって、石庖丁未完成品が報告されないことが多々ある現状で、各行政機関や大学など研究機関に収納されている発掘品を一つ一つ掘り起こす調査方法で点検することは日程的にも実質的にも困難である。この点北九州市域、遠賀川流域（岡垣町、遠賀町、芦屋町、水巻町、中間市、鞍手町、直方市、宮若市、飯塚市、桂川町、嘉麻市、田川市、香春町、福智町、添田町）では石器生産に関する報告例が比較的多いことは当調査の目的（石庖丁未完成品の出土遺跡を把握）を達成するのに必要な条件が整っている。さらに、この地域を調べることは、弥生文化を代表する北部九州（福岡県、佐賀県、大分県北部）地帯の抽出調査としての意味をもつ。^(註6)

②石庖丁を作った証しとして、工房、道具、石庖丁未完成品、製作途中で廃出される剥片などが複合して確認することが望ましい。特に石庖丁未完成品と剥片がともに出土すればこの上ない。発

石庖丁未完成品出土遺跡一覧表

	遺跡名	住 所	未完成品	石庖丁	他石器未完成品	遺構の性格	時 期	備 考
1	大坪遺跡	岡垣町大字山田字大坪	I II III	○		集落跡	後期前半	凝灰岩質頁岩石核
2	友田遺跡群1区	岡垣町大字糠塚字山田	II III	○			後期	
3	慶ノ浦遺跡	遠賀町大字尾崎字慶ノ浦	II	○		集落跡	前期末	
4	宮田遺跡A地点	水巻町大字吉田字宮尾	III					確認を要する
5	福柳木遺跡	戸畑区福柳木町	III					
6	鞘ヶ谷陸上競技場上	戸畑区鞘ヶ谷	II					
7	高槻遺跡第9地点	八幡東区松尾町一丁目	II III	○	剣 戈 斧	集落跡	中期前半	横の小川に原石あり
8	高槻遺跡第11・12地点	八幡東区清田町2丁目5	II III	○	剣 斧など	溝	中期	
9	竹下町遺跡	八幡東区竹下町9-20	II III	○	剣 斧など		前期末	剥片
10	神願地遺跡	八幡東区神願地	II III		斧			
11	原遺跡	八幡西茶屋原	II III	○	斧 剣 戈	集落跡	中期前半	剥片
12	杉森神社遺跡	八幡西区香月・杉森神社境内	II					
13	香月遺跡	八幡西区香月2693ほか	II III	○	剣 戈 斧			剥片
14	馬場山遺跡	八幡西区大字馬場山	I II III	○	剣 戈 斧 鎌	貯蔵穴に投棄	前期～中期	剥片
15	辻田遺跡	八幡西区大字馬場山字辻田	I II III	○	剣 戈 斧 鎌	集落跡	前期～中期	剥片
16	辻田西遺跡	八幡西区大字馬場山	I II III	○	剣 戈 斧 鎌	集落跡	中期～後期	剥片
17	辻田遺跡第2地点	八幡西区大字馬場山字辻田	I II III	○	剣 戈 斧 鎌	集落跡	中期	剥片
18	光照寺遺跡	八幡西区香月西一丁目他	I II III	○	剣 鎌		中期後半	剥片
19	行正遺跡	八幡西区楠橋上方一丁目	I II III	○			後期	
20	門田遺跡	八幡西区金剛字角田	I II III	○	剣 戈 斧 鎌	集落跡	中期前半	剥片
21	馬責場遺跡	八幡西区永犬丸五丁目	II III	○	剣 斧	集落跡	中期前半	剥片
22	砂山遺跡	中間市大字底井野字砂山	I II	○		集落跡	中期	
23	屏賀坂遺跡	小倉北区金鶏町	I II III	○		集落跡	後期	
24	重留遺跡第4地点	小倉南区重住一丁目	II III	○	鎌 剣 斧	住居址の投棄	後期	剥片
25	重留遺跡第5地点	小倉南区重住一丁目	II III	○	鎌		中期・後期	剥片
26	南方・上ヶ方遺跡11地点	小倉南区徳力新町二丁目	I II				中期	
27	北方遺跡	小倉南区北方四丁目	II III	○	斧		中期前半	剥片
28	北方遺跡 モノレール	小倉南区北方	II	○			中期前半	
29	寺内遺跡	小倉南区北方三丁目	I II	○			前期	確認を要す
30	蒲生寺中遺跡	小倉南区蒲生二丁目	III	○				現地に剥片散在
31	寺田遺跡	小倉南区蒲生五丁目	I II III	○	斧 剣	集落跡	前期末・中期	
32	寺田遺跡5区	小倉南区蒲生五丁目	II	○	斧	溝に投棄	中期	
33	長行遺跡	小倉南区長行	II III	○	斧		中期	
34	宮原遺跡	小倉南区菅生団地	I II III	○	斧 剣 鎌	集落跡	中期	
35	高津尾遺跡第14地点	小倉南区高津尾	I II III	○	斧 剣 鎌	集落跡	前期末・中期	剥片
36	高津尾遺跡2区	小倉南区高津尾	II III	○	剣 戈 斧 他	集落跡	前期末・中期	剥片
37	高津尾遺跡3区・26区	小倉南区高津尾	II III	○	剣 戈 斧 他	集落跡	前期末	
38	岡遺跡	小倉南区山本字岡	II III	○	斧 鎌		中期前半・後半	
39	丸ノ内遺跡	小倉南区大字横代字丸ノ内	II III					
40	新池坂本遺跡	小倉南区大字横代字坂本	I II III	○			後期	剥片
41	カキ遺跡	小倉南区大字横代字カキ	II III	○		水路に投棄	後期	
42	長野フンデ遺跡	小倉南区長野	II III	○			後期	剥片
43	長野フンデ遺跡5区	小倉南区長野	II III	○			中期	
44	長野フンデ遺跡6区	小倉南区長野774番地外	II III	○	剣		後期	
45	長野小西田遺跡	小倉南区長野字小西田	II III	○			中期・後期	
46	長野角屋敷遺跡	小倉南区長野	III	○			中期・後期	
47	長野尾登遺跡3地点	小倉南区長野字尾登	III			包含層		
48	金山遺跡Ⅱ区	小倉南区横代東四丁目	I	○	鎌			
49	金山遺跡Ⅲ区	小倉南区横代金山	III		鎌 剣 斧		後期	
50	上横代遺跡	小倉南区大字横代325番地	II	○			後期	
51	上清水遺跡Ⅰ区	小倉南区大字横代	II	○			後期	
52	上清水遺跡Ⅱ区	小倉南区大字横代	II	○		集落跡	後期	
53	上清水遺跡Ⅲ区	小倉南区横代字横枕	II III	○		包含層	後期末	
54	高野遺跡	小倉南区高野二丁目10	II III	○	斧		中期・後期	剥片
55	祇園町遺跡	小倉南区長尾一丁目	I II III	○		集落跡	後期	
56	菅生遺跡	小倉南区字徳吉 菅生中学校	I II				中期	
57	釜蓋遺跡第2地点	小倉南区大字台馬	II				中期	

58	上徳力遺跡神理教前	小倉南区徳力	Ⅲ	○			中期・後期	
59	上徳力遺跡第22地点	小倉南区大字徳力	I II III	○		集落跡	後期	
60	上徳力遺跡第24地点	小倉南区徳力	II III	○			後期	剥片
61	上徳力遺跡第18地点	小倉南区大字徳力六丁目	Ⅲ					
62	玉塚遺跡第2地点	小倉南区大字徳力193	II					
63	徳力遺跡第2地点	小倉南区大字徳力	II				後期	
64	下徳力遺跡	小倉南区大字徳力	I II III	○		集落跡	後期	
65	森山西遺跡	小倉南区津田南町2丁目	Ⅲ				中期	
66	大積前田遺跡	門司区大字大積651-1	II III	○				
67	上ノ原遺跡	田川市楠513外	II III	○			中期	
68	下伊田遺跡	田川市大字伊田56-1他	II III	○		集落跡	"中期、後期"	
69	冥加塚遺跡	川崎町大字田原字冥加塚	II				中期初頭	
70	末ヶ迫遺跡	糸田町松ヶ迫	II	○			中期初頭	
71	鋤木田川底遺跡	福地町鋤木田	II III	○				市場小学校所蔵
72	感田上原遺跡	直方市感田上原	I II III	○	剣 戈 斧	集落跡に投棄	前期末・中期	剥片
73	日の出橋遺跡	直方市外町	II III	○				
74	中川原遺跡	宮若市大字宮永字中川原	Ⅲ	○		集落跡	後期	
75	大谷遺跡	宮若市大字千石字大谷	II					
76	東向原遺跡	宮若市大字原田字東向原	II III	○	戈 鎌	集落跡	中期	
77	小原遺跡	宮若市大字山口字小原	II	○		集落跡	中期	
78	茶臼山遺跡	宮若市大字山口字小原	II	○		集落跡		
79	前田遺跡 I	宮若市大字稲光字前田	II III	○			前期末	
80	薬師丸遺跡	宮若市 薬師丸	II					
81	浪打遺跡	鞍手町浪打	II					
82	犬王丸遺跡	鞍手町犬王丸	II					
83	中屋敷遺跡	鞍手町中山中屋敷	II					
84	下ノ方遺跡	飯塚市大字立岩字下ノ方	I II III	○	剣 戈 斧	集落跡	中期中葉	剥片
85	焼ノ正遺跡	飯塚市大字立岩字焼ノ正	I II III	○	斧 剣 戈	集落跡	中期中葉	剥片
86	高尾山遺跡	飯塚市大字立岩字高尾山	I II III	○		集落跡		
87	甘木山遺跡	飯塚市大字立岩字甘木山	I III	○	剣 戈	集落跡	中期中葉	
88	川島遺跡	飯塚市大字川島字殿浦	I II III	○	剣 戈 斧		中期中葉	剥片
89	立岩グラウンド	飯塚市大字立岩 グラウンド	I II	○				
90	堀田遺跡	飯塚市大字立岩字堀田	I II III	○			中期中葉	多量の剥片
91	城腰遺跡	飯塚市額田町佐与	II III	○		集落跡	中期	
92	猪ノ尻遺跡	飯塚市額田町猪ノ尻	Ⅲ					
93	二塚遺跡	桂川町大字土師字長迫	II	○			後期	
94	土師遺跡	桂川町大字土師	Ⅲ	○				
95	影塚南遺跡	桂川町大字土師影塚	II					
96	飯塚牟田南遺跡	桂川町大字土師字飯塚牟田	II III	○	剣 斧 鎌ほか		前期末	
97	寿命隈西遺跡	桂川町大字土師字寿命隈西	II III	○	剣		中期前葉	
98	大坪遺跡	桂川町大字土師字大坪	II III	○	剣 斧		中期	剥片
99	八王寺遺跡	碓井町大字飯田字八王寺	II III	○	剣 戈 斧 鎌	貯蔵穴に投棄	中期中葉	剥片
100	江星遺跡	嘉麻市嘉穂町才田字江星	II			貯蔵穴に投棄	中期中葉	

- ・ 未完成品の項は石庖丁の加工度合によって I を粗割加工段階、II を調整加工段階、III は研磨・穿孔加工段階を示した。
- ・ 石庖丁の項は使用痕のある石庖丁、使用によって欠損した石庖丁、使用にともなう砥直された石庖丁などである。

掘調査からえた資料と言う性格から、全ての条件が整うことはむつかしいので、石庖丁未完成品の出土をもってその地(集落)で作られたものと判断した。

③未完成品出土遺跡一覧表は石庖丁を作った集落を把握することを第一の目的とした。弥生時代の生産と流通を考える手段として、輝緑凝灰岩質頁岩を用いた石庖丁や今山産玄武岩を用いた石斧の未完成品を用いて論じられてきた。原材料としての石材(輝緑凝灰岩質頁岩や凝灰岩質頁岩等)の流通は後に触れるとして、穂積具としての石庖丁の生産の実態を未完成品一覧表で示した。

④合わせて、石庖丁を作っている集落の性格を総合的に把握する意味から石斧、石剣、石戈などの生産の実態(未完成品の存在)も示しておくこととした。とくに留意して調査したことは石庖丁の項である。石庖丁は使用痕のある石庖丁や使用にともなう欠損の補修によって変形した石庖丁が多く、出土集落(石庖丁を作っている集落)は稲作農耕を行っている事を示している。

まとめ

弥生時代の物づくりの実態を復元すべく、遺跡(集落)ごとの資料を出来る限り集め、未完成品一覧表としてみた。結果、非常に多くの集落跡(当時としては普通の集落)で石庖丁等を作っていること、さらに、それらの集落からは使用痕や研直しによって変形した石庖丁も出土しており、稲作農耕を行っていることが確認できた。

生産と言えば流通のことが併せて議論される傾向が強く、従来、輝緑凝灰岩質頁岩で作った石庖丁という要素で生産と流通の問題が語られてきた。ここでは石庖丁と言う要素を基に生産の実態について調査したことと関連し、石庖丁の原材料の流通について述べることによって、弥生時代の社会構造を浮き彫りにできればと思う。

立岩遺跡群からしか、石庖丁未完成品は出土しないと認識されていた従来、石庖丁の流通を考えるに当たって、輝緑凝灰岩質頁岩で作った石庖丁を基にして流通を論じている。立岩遺跡群だけではなく、多くの集落から輝緑凝灰岩質頁岩で作った石庖丁未完成品と剥片が出土する事が明らかとなった今日では、石庖丁と原材料(輝緑凝灰岩質頁岩など)の流通は別の交換要素(固有の価値)として把握すべきである。

石庖丁に使用された原材料をみると、頁岩ないしは細粒砂岩とそれらが熱変成を受けた石材が使われている。それらをさらに細かくみると、嘉穂盆地では輝緑凝灰岩質頁岩が多く、他にも凝灰岩質頁岩などが使われている。遠賀川下流域と北九州市域では凝灰岩質頁岩などが圧倒的に多い、少量の輝緑凝灰岩質頁岩も使われている。頁岩系の石が石庖丁や石剣など磨製石器の原材料に使われた理由は比較的大きく板状に加工ができ、火成岩に比べて研磨しやすいからである。さらに、熱編成を受けた石は堆積岩特有のもろさがなくなり、粘りをもち刃物に焼入れをしたのと同じ状態になる点が石庖丁の材料に最適と評価され、採集されたのであろう。

これらの原材料は中生代の脇野湖に堆積してきた水成岩であり、福岡県の東北部に広く分布しており、今回調査対象とした地帯であれば比較的簡単に手に入る。すなわち、人々は必要に応じて近

くの沢に出かけ採集したか、すでに採集し余った原材料を持っている人から物々交換によって手に入れたものと見られる。^(註7)

今回の調査で明らかなように、石庖丁は、各集落が稲作農耕の道具として、それぞれで作り使用した。副次的に余り物については物々交換によって流通されたと見られる。

当調査に際して、北九州市教育委員会、(財)北九州市芸術文化振興財団、鞍手町歴史民俗資料館、小方良臣、長谷川清之、福島日出海、坪根伸也、米田鉄也、古後憲浩、岡崇の各氏からご教示、ご配慮を賜った。また、いつもながら紀要への投稿を快諾いただいた白峰旬先生をはじめとする別府大学の諸先生に心からお礼申し上げ、結びとしたい。

註1 1934年 中山平次郎「飯塚市立岩字焼ノ正の石庖丁製造所址」『福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書第九輯』

註2 本稿は石庖丁未完成品の出土実態を把握する事を目的としたため、專業集団や分業などの言葉の定義については細かく紹介していない。以下提唱者らの論文をあげておくので、参考とされたい。

1936年 和島誠一「金属文化の輸入と生産經濟の發達」『日本歴史教程』

1972年 下條信行「九州考古学の諸問題－弥生時代－」『考古学研究105』

1973年 高島忠平「立岩産石庖丁の生産と流通」『考古学研究108』

註3 本稿は道具の生産について論ずるので、道具本来の用途、石庖丁であれば、穂摘みができる状態に仕上がったものを完成品と記し、道具（石庖丁）に作る途中工程の品を未完成品と記すのが妥当であるが、完成品は石庖丁と記す。さらに、遺跡から出土する未完成品の多くは製作過程で欠損し次の工程に進むことができない未完成品が圧倒的に多い。これらは区別して取り扱うべきであろうが、本稿の目的（石庖丁など道具がどこで作られているかを明らかにすること）からは区別する必要はないと考え、今回は未完成品の欠損品も未完成品として取り扱った。

註4 1980年 中島茂夫「弥生時代の手工業の実態」『考古学研究』27-1

1983年 中村修身「いわゆる立岩産輝緑凝灰岩製石庖丁の再検討」『地域相研究第13号』

註5 石器生産を考えるにあたって集落内の住居と工房（作業場など）の関係も踏まえて論ずるべきと考える。そのためには遺構と遺物からそれを判断すべきである。しかし、遺構は残っていないことが多い。また、遺物の多くは本来の役割を終え、関連遺構から切り離され、住居や貯蔵穴や溝や塵捨て用に掘られた穴などに投棄された状態で発掘調査されることが多く、北九州市香月遺跡のような住居内の炉に製作過程で生じた剥片が入った状態で確認される例は少ない。したがって、住居や貯蔵穴や溝や塵捨て用に掘られた穴などに投棄された遺

物は集落所属として取りあつた。

集落内の遺構の関係まで明らかにできる資料に限定すると、多くの剥片や未成品が語るうとしていることを、聞き逃してしまうことになる。集落内の単位と石器生産の関係については、将来的課題とし、今回は集落を単位として考えた。

註6 ①北九州市域、遠賀川流域の調査結果が北部九州地区の抽出調査になりうるのか、福岡平野での石庖丁未成品出土状況とは違うではないかとの指摘が出そうに思われる。今回の調査の目的は現実と認識のずれを修正することにある。果たして福岡平野の集落において石庖丁未成品は出土していないのであろうか。ちらほらではあるが、福岡平野や周囲地域での石庖丁未成品の発掘例の報告があり、関係者による再調査の時期が来ているように思う。

②石庖丁の生産の実態についての本調査は、北部九州の抽出調査の位置をもつことは述べたが、日本列島全体の弥生時代における北部九州と山口県、愛媛県、大阪府などの他地方で石庖丁出土数に大きな差がある。この点の評価は後日に譲る事としたい。

註7 笠置山が輝緑凝灰岩質頁岩の原産地であるとされ、最近では凝灰岩質頁岩の原産地として福知山系金剛山が吹聴され、全国的に有名になっている。指摘の輝緑凝灰岩質頁岩はそれぞれの山に分布しているが、そこには石庖丁の原材料を取った痕跡（未成品や剥片）を指摘するに十分な地点は確認できない。御存知の方は場所をお教えいただきたい。

中間研志氏は1998年に発刊された『椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告(8)下』の報告において石材のことを「我々北部九州の研究者が、普通立岩産輝緑凝灰岩と呼んでいる小豆色の石庖丁石材が、北九州市域にも産地があり、豊前地方のものは立岩産のものではない可能性があるとのことであった。」文章はさらに続き「藤井厚志氏の鑑定では、小豆色の石材が「赤紫色砂岩」や「赤紫色凝灰岩」とされいささか面くらった次第である。更に、他の凝灰質粘板岩や砂岩の石材を含めて、ほとんどが北九州市域内の産地であろうとの結果は、人生観を変えざるを得ない程意外であった」と報告している。つまり、石庖丁の材料は笠置山、金剛山を含めた福岡県下の大自然から採集したものと考えられる。

一覧表作成にあたり参考とした文献

- 1961年 戸畑市役所『戸畑市史第2集』
- 1967年 直方市教育委員会『感田上原遺跡発掘調査概報』
- 1975年 北九州市埋蔵文化財調査会『馬場山遺跡』
- 1976年 中村修身『飯塚市川島遺跡出土の石庖丁とその未成品の紹介』「速見考古学第5号」
- 1977年 北九州市教育委員会『屏賀坂遺跡』「北九州市文化財調査報告書第23集」
- 1979年 北九州市教育委員会他『香月遺跡』「北九州市文化財調査報告書第30集」
- 1980年 糸田町教育委員会『松ヶ迫遺跡』「糸田町文化財調査報告書第1集」
- 1980年 北九州市教育委員会他『辻田遺跡』「北九州市文化財調査報告書第35集」

- 1980年 北九州市教育委員会他『馬場山遺跡』「北九州市文化財調査報告書第36集」
- 1982年 (財)北九州市教育文化事業団『辻田西遺跡』『北九州市埋蔵文化財調査報告書第13集』
- 1983年 中村修身『いわゆる立岩産輝緑凝灰岩製石庖丁の再検討』「地域相研究第13号」
- 1983年 飯塚市教育委員会『焼ノ正遺跡』「飯塚市文化財調査報告書第7集」
- 1984年 (財)北九州市教育文化事業団『馬責場遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第26集」
- 1985年 北九州市教育委員会『北方遺跡』「北九州市文化財調査報告書第43集」
- 1986年 (財)北九州市教育文化事業団『北方遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第48集」
- 1986年 桂川町教育委員会『影塚南遺跡・影塚東遺跡』「桂川町文化財調査報告書第6集」
- 1986年 川崎町教育委員会『冥加塚遺跡』「川崎町文化財調査報告書第2集」
- 1987年 桂川町教育委員会『土師地区遺跡群Ⅴ』「桂川町文化財調査報告書第8集」
- 1987年 碓井町教育委員会『八王寺遺跡群Ⅱ』「碓井町文化財調査報告書第2集」
- 1987年 (財)北九州市教育文化事業団『平等寺・新池坂本遺跡』『北九州市埋蔵文化財調査報告書第63集』
- 1988年 岡垣町教育委員会『友田遺跡群1区』「岡垣町文化財調査報告書第8集」
- 1989年 長谷川清之『田川市糯植木忠氏資料の紹介（そのⅠ）』「郷土田川第32号」
- 1989年 田川市教育委員会『下伊田遺跡群』「田川市文化財調査報告書第4集」
- 1989年 (財)北九州市教育文化事業団『上徳力遺跡2』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第77集」
- 1989年 (財)北九州市教育文化事業団『上徳力遺跡2』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第77集」
- 1989年 (財)北九州市教育文化事業団『下徳力遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第79集」
- 1989年 (財)北九州市教育文化事業団『岡遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第82集」
- 1989年 北九州市教育委員会『高津尾遺跡第14地点』「北九州市文化財調査報告書第47集」
- 1989年 桂川町教育委員会『土師地区遺跡群Ⅶ』「桂川町文化財調査報告書第10集」
- 1991年 桂川町教育委員会『土師地区遺跡群Ⅷ』「桂川町文化財調査報告書第11集」
- 1991年 (財)北九州市教育文化事業団『辻田跡第2地点』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第99集」
- 1991年 (財)北九州市教育文化事業団『上清水遺跡Ⅱ区』『北九州市埋蔵文化財調査報告書第100集』
- 1991年 (財)北九州市教育文化事業団『玉塚遺跡第2地点』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第103集」
- 1991年 (財)北九州市教育文化事業団『寺内遺跡』『北九州市埋蔵文化財調査報告書第106集』
- 1992年 若宮町教育委員会『中遺跡群Ⅲ』「若宮町文化財調査報告書第11集」
- 1992年 (財)北九州市教育文化事業団『徳力土地区画整理事業関係調査報告5』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第112集」
- 1992年 (財)北九州市教育文化事業団『金山遺跡Ⅱ区』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第122集」
- 1993年 (財)北九州市教育文化事業団『上清水遺跡1区』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第130集」
- 1995年 (財)北九州市教育文化事業団『上清水遺跡Ⅲ区』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第160集」
- 1995年 (財)北九州市教育文化事業団『力キ遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第161集」
- 1996年 (財)北九州市教育文化事業団『徳力土地区画整理事業関係調査報告書8』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第185集」
- 1996年 (財)北九州市教育文化事業団『徳力土地区画整理事業関係調査報告書9』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第186集」
- 1996年 (財)北九州市教育文化事業団『祇園町遺跡3』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第193集」
- 1997年 (財)北九州市教育文化事業団『高野遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第198集」
- 1997年 (財)北九州市教育文化事業団『大積前田遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第201集」

- 1997年 若宮町教育委員会『中遺跡群Ⅳ』
- 1998年 桂川町教育委員会『土師地区遺跡群Ⅵ』「桂川町文化財調査報告書第9集」
- 1998年 (財)北九州市教育文化事業団『徳力と地区面整理事業関係調査報告11』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第213集」
- 1998年 (財)北九州市教育文化事業団『森山西遺跡Ⅲ区』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第218集」
- 1999年 北九州市教育委員会『釜蓋遺跡第2地点』「北九州市文化財調査報告書第81集」
- 1999年 (財)北九州市教育文化事業団『金山遺跡Ⅲ区』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第224集」
- 1999年 (財)北九州市教育文化事業団『光照寺遺跡2』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第234集」
- 2000年 (財)北九州市教育文化事業団『貫・丸尾遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第239集」
- 2000年 (財)北九州市教育文化事業団『高槻遺跡第9地点』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第242集」
- 2000年 (財)北九州市教育文化事業団『上横代遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第249集」
- 2000年 (財)北九州市教育文化事業団『長野フンデ遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第252集」
- 2000年 (財)北九州市教育文化事業団『行正遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第254集」
- 2001年 遠賀町教育委員会『先ノ野遺跡・慶ノ浦遺跡』「遠賀町文化財調査報告第14集」
- 2001年 (財)北九州市教育文化事業団『長野小西田遺跡2』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第262集」
- 2001年 (財)北九州市教育文化事業団『長野角屋敷遺跡2』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第263集」
- 2001年 (財)北九州市教育文化事業団『重留遺跡第3地点』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第268集」
- 2001年 (財)北九州市教育文化事業団『高槻遺跡群』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第273集」
- 2002年 (財)北九州市教育文化事業団『重留遺跡第五地点』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第269集」
- 2002年 (財)北九州市芸術文化振興財団『蒲生寺中遺跡1』「九州市埋蔵文化財調査報告書第274集」
- 2002年 (財)北九州市教育文化事業団『長野尾登遺跡第3地点A区』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第281集」
- 2003年 (財)北九州市芸術文化振興財団『長野フンデ遺跡3』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第301集」
- 2003年 (財)北九州市芸術文化振興財団『寺町遺跡2』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第305集」
- 2004年 (財)北九州市芸術文化振興財団『寺町遺跡3』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第306集」
- 2005年 若宮町誌編纂委員会『若宮町誌上巻』
- 2006年 (財)北九州市芸術文化振興財団『丸ノ内遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第346集」
- 2006年 (財)北九州市芸術文化振興財団『長野フンデ遺跡4』「北九州市埋蔵文化財調査報告書第348集」
- 2006年 額田町教育委員会『猪ノ尻・島奥遺跡』「額田町文化財調査報告書第10集」